

・熱活動（図 4 ～ 7）

機動調査観測による熱映像観測¹⁾では、北側火口壁と大鉢の一部で高温域がみられました。
機動調査観測による全磁力繰返し観測では、火山活動に起因するとみられる変化はありません
でした。

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所を測定することが出来る利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

* 機動調査観測を 18 日から 23 日にかけて実施しました。

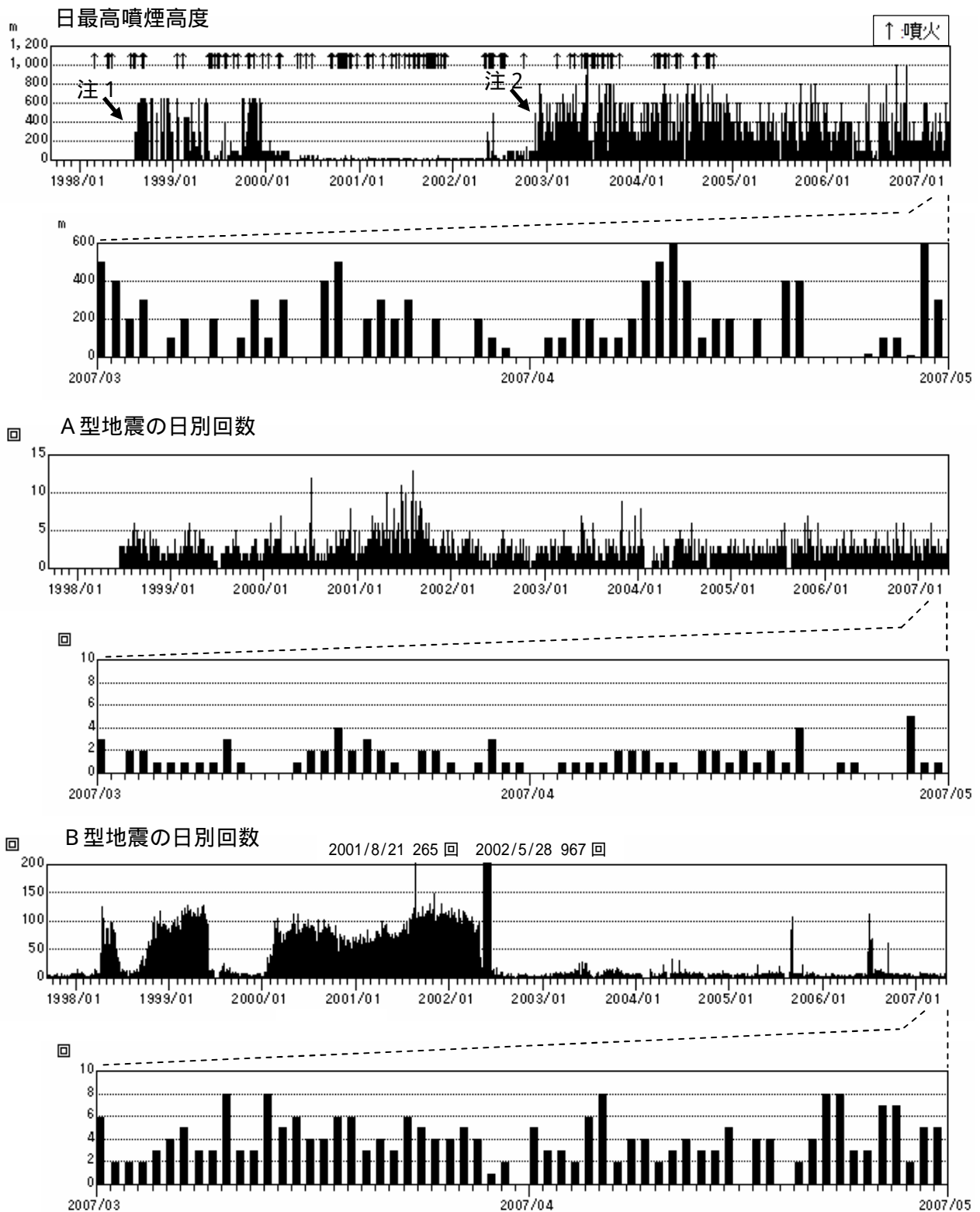


図2 薩摩硫黄島 火山活動経過図(1997年9月10日～2007年4月30日)

- ・噴火はありませんでした。
- ・噴煙は白色・少量で、最高高度は11日、29日の火口縁上600m(3月:500m)でした。
- ・A型地震は36回(3月:44回)で、大きな変化はありませんでした。
- ・B型地震は119回(3月:124回)で、やや多い状態でした。

注1 1998年8月1日 三島村役場硫黄島出張所から気象庁へ通報開始。

注2 2002年11月16日 気象庁が設置した監視カメラによる観測開始。

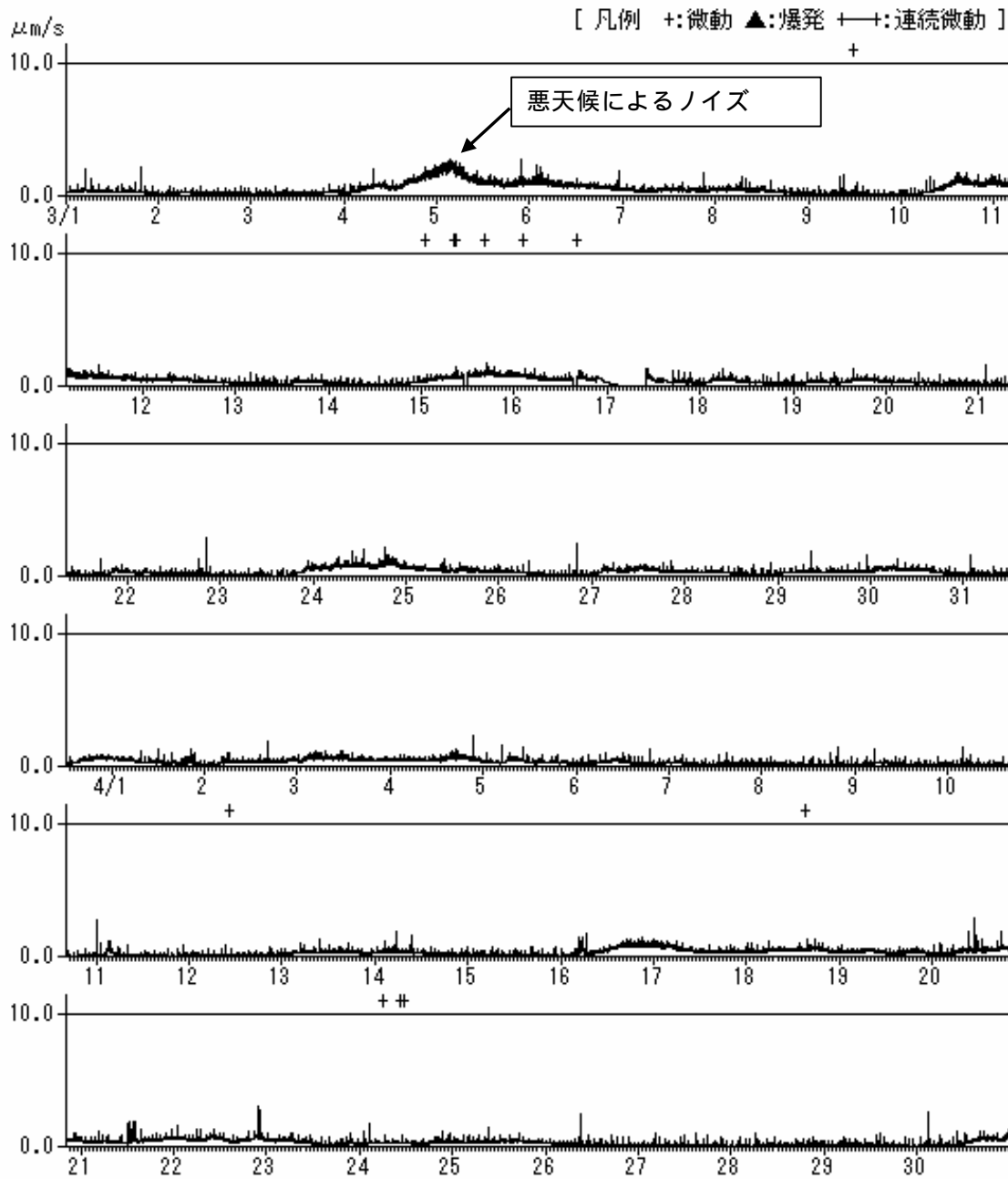


図3 薩摩硫黄島 1分間平均振幅の時間変化（ST11 上下成分）（2007年3月1日～4月30日）

- ・火山性連続微動はありませんでした。
- ・継続時間の短い火山性微動が時々発生しました。

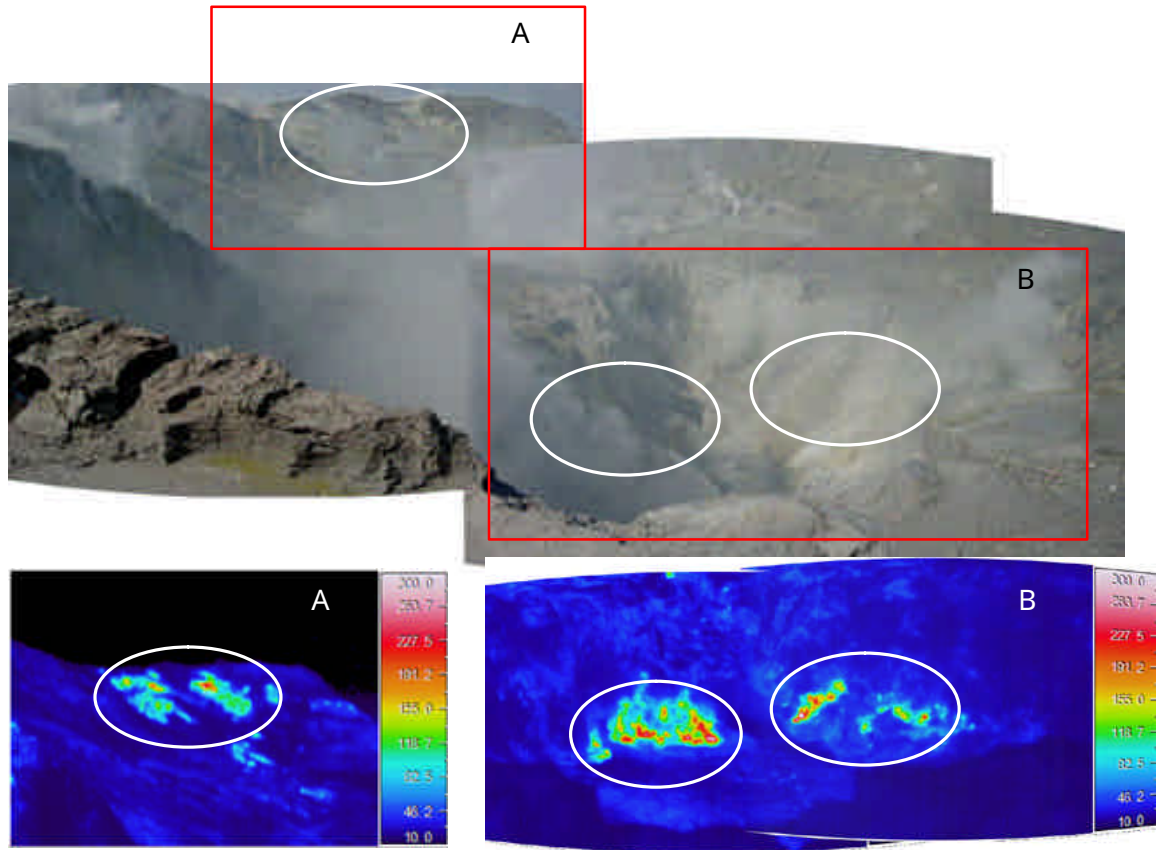


図4 薩摩硫黄島 上図：定点1から硫黄岳山頂火口を撮影(可視画像)

下図：赤外熱映像装置により定点1からA：北側火口壁、B：大鉢を撮影

- ・北側火口壁と大鉢の一部で高温域がみられました(図中楕円部分)。
- ・火山灰の噴出はありませんでした。

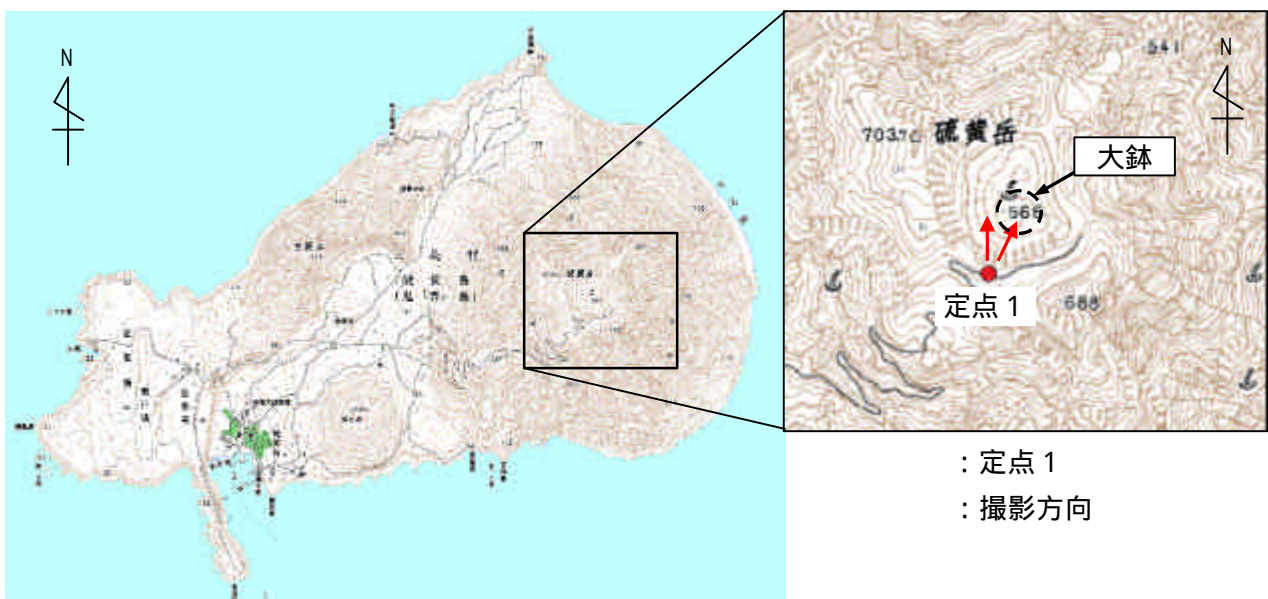


図5 薩摩硫黄島 熱映像観測点位置図

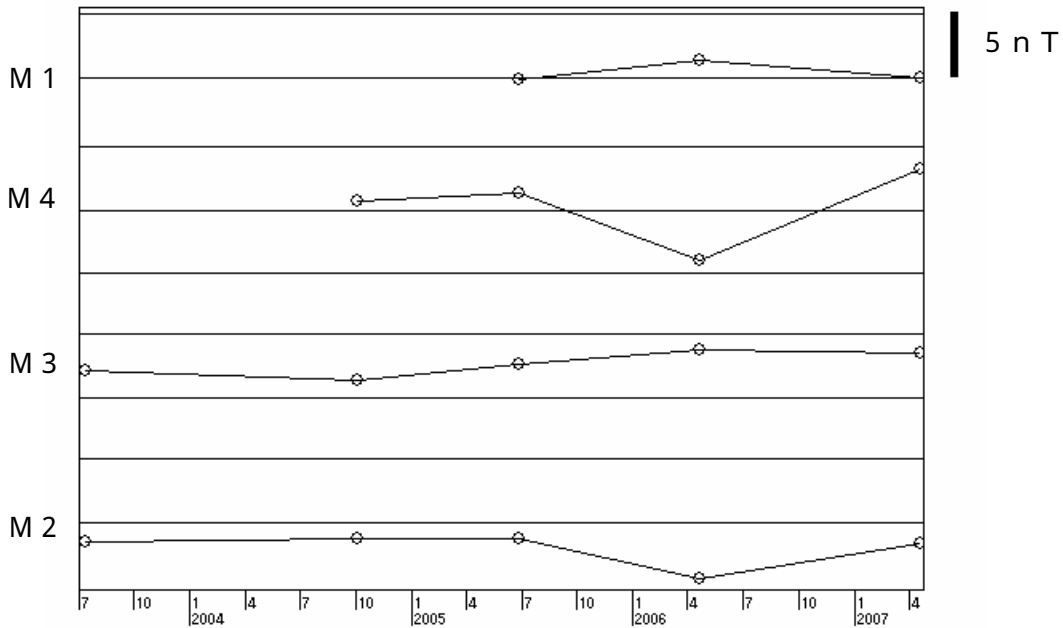


図6 薩摩硫黄島 全磁力繰り返し観測の結果(2003年7月~2007年4月)

・火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

< 補足説明 >

火口の北側で全磁力値に増加傾向(図中、上向き)、南側で減少傾向(図中、下向き)が見られた場合、火口直下での温度上昇があると考えられます。

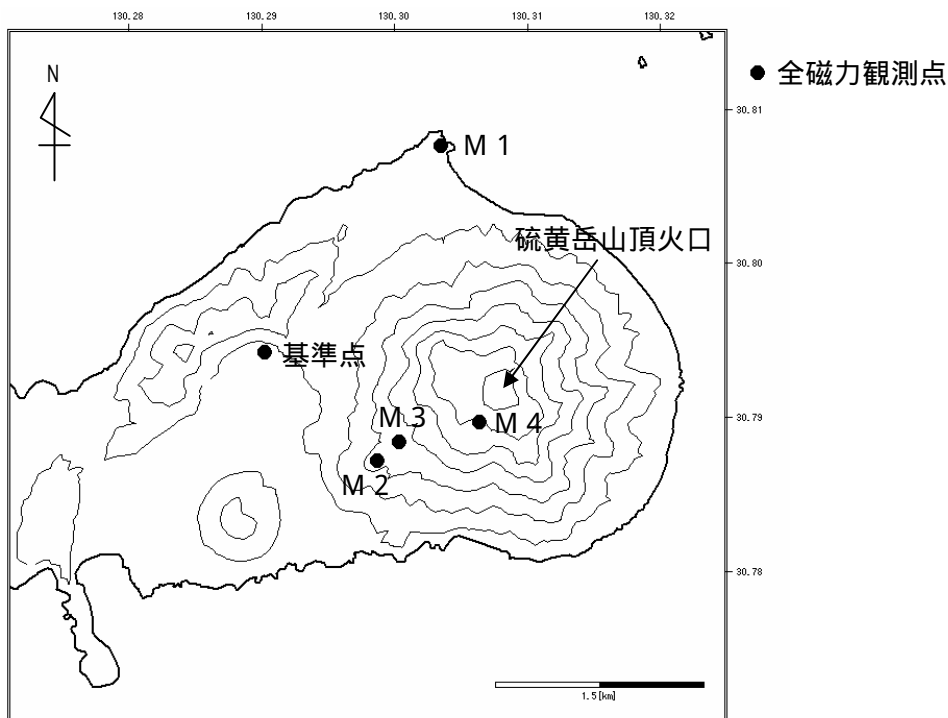


図7 薩摩硫黄島 全磁力繰り返し観測点配置図